

新城市文化協会  
ホームページは  
▼こちら▼



# 新城文化

書 村田華城

編集・発行 新城市文化協会

◎ 「子どもの輝きは大人の輝きから」 教育長 安形 博 …………… P 2	◎ 「県文連・東三河部の活動を振り返って」 会長 天野 雅夫 …………… P 3	◎ 令和六年度 ・表彰者ご紹介 ・各分野主催企画案内 …………… P 3	◎ 県美展上位入賞者作品紹介 …………… P 4	◎ 各茶会の報告 ・初釜茶会 …………… P 4	◎ 初心者入門講座 感想・作品紹介 フラ(ダンス)・パステル画・ 多色刷り年賀状づくり …………… P 5	◎ 文化財めぐり (関・美濃を訪ねて) …………… P 6	◎ 各分野の活動から ・新調能装束の紹介 ・フラダンスを楽しみましょう ・「万葉集」を読み進めて …………… P 7	◎ 賛助会員名簿 ご協力ありがとうございました …………… P 8
--	---	--	--------------------------	-----------------------------	--	-------------------------------	---	--------------------------------------



デザイン切り絵 花田 幸三



# 子どもの輝きは 大人の輝きから

新城市教育長

安形 博



「タイパ」という言葉が、世に出回っています。費用対効果

を表すコストパフォーマンスならぬ時間対効果、タイムパフォーマンスを略した言葉です。なるべく短い時間で大きな満足を得たい、目に見える成果を得たい、自分の思う方向にすすめたいという社会の思いが現れているように感じます。

文化というのは、もしかしたら、この「タイパ」とは対極にあるものなのかもしれません。

書道でしたら、何枚も何枚も同じ字を書き続け、思うようにならぬ一画一点のためにまた次の用紙を手にとるといったところででしょうか。学校での書き初め会を考えてみますと、年始の思いを込めながら、真剣に取り組む子どもたちの顔が思い浮かびます。授業時間いっぱいをかけ、自分の至極の一枚を完成させようと集中します。小学校一、二年生は硬筆

です。低学年の子どもたちにとって最後の字まで書ききる集中力を保つのはなかなか難しいことです。自分の心と体をコントロールしながら文字に向き合い、小さい子どもたちなりに自分の内なるものにも向き合っている時間とも言えるでしょう。

毛筆に取り組み始めたばかりの三年生は、文字や名前を用紙にバランスよく収めることだけでも苦心します。それでも、真剣に書いた文字はとての心がそのまま用紙に現れたかのようです。途中までうまく書けていたと思っていたのに、一画のためにバランスがくずれ、「ああ」と思わず声が出てしまうこともあります。何枚か書いたのち一枚だけ作品を提出するのですが、どれがいちばんよい作品か自分では決めきれず、「どっちがいいと思う？」と友達や教師に声をかけている子もいます。その表情には、自分にとって満点ではなくとも、満点に近いものをめざした誇らしさが映し出されています。「何度やっても思うようにはいかない、思うようなものができあがらない、自分が行うことなのに、思うようにはいかないもどかしさもひっくり返るめてそれが楽しい」ここにこそ、文化の楽しみがあるのではないかと思います。そ

の楽しみは、大げさに言えば、人生の楽しさそのものかもしれません。

新城市では、令和六年四月に向こう五年間の「教育振興基本計画」を策定しました。方針の一つを「子どもの輝きは大人の輝きから」としました。主役を子どもたちとしている学校教育ですが、その子どもたちが生き生きと輝くためには、少し前を生きる大人たちが毎日を楽しむことが大事なのではないかと考えました。そこで教育委員会としましては、子どもも輝き、大人も輝くことのできる環境づくりを大切にしています。文化芸術を楽しむ大人の姿を間近で見ることが、子どもたちにとって何よりの教育環境だと捉えています。文化芸術を楽しんでいらつしやるお一人お一人こそが、新城市の大切な財産です。文化芸術の楽しみ方は、楽しんでいらつしやる人の数だけあることでしょう。そのどれもが魅力的であり、どれにも間違いはありません。その懐の深さも文化の魅力の一つです。文化というつかみきれないほどのスケールの大きい言葉は、このようなお一人お一人の文化を楽しむ気持ちの集合体のような気さえしてきます。

八月、『新能』が文化会館で行われています。新城文化会館のホールが

この日ばかりは能楽堂へと姿を変える日です。舞台上には本物の竹が運び込まれ、篝火に模した灯とぼんぼりとで、幻想的な雰囲気が生み出されます。真夏の暑さが、このホール内だけはひんやりとした空気がただよいます。その格調高い舞台では、長きにわたる文化を受け継ぐ地域の大人たちとともに、小学生も演じていました。まっすぐの眼差しで堂々と演じ切る小学生の姿に、聴衆は引き込まれていました。子どもたちが地域の中で育つには、文化は重要なカギであると感じました。また、あの教員は、地域のこのような文化の魅力にふれ、子どもたちの学びに生かそうと授業構想を練っていました。新城の文化は新城の教育を語るうえで欠かせないものとなっています。文化の分野が多岐にわたっていることが新城市の強みともいえます。

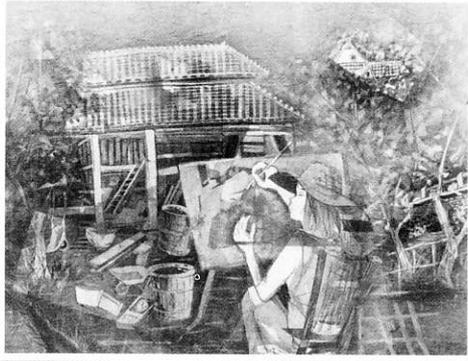
人生百年時代。時間はたつぷりとあります。また、「タイパ」によって、本来自分が楽しみたいことにかける時間も生み出されていることでしょう。文化は、大人も子ども輝くまちへの希望の光です。



# 第49回愛知県文連美術展 (公募)

愛知県知事賞

工芸「流れ去る時」 谷口 茂春



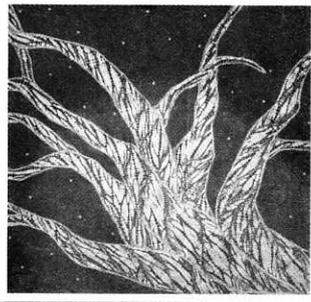
特選

洋画「作品24-1」 中村 昌弘



県文連美術展 上位入賞者作品紹介

愛知県文連美術展



奨励賞

工芸「生きる」  
宇佐美玲子



入選

洋画「笑る」  
西村慎太郎

入選

「万法唯心」 潤 玲鳳

## 第二十七回

新春初釜茶会と初生け会

茶華友の会 会長 今泉 正子

令和七年一月二十三日(木)

於 新城文化会館三階

(和室・三〇二室)

桜の開花が話題になる程の暖かい一日に恵まれ、会員の笑顔でお客様をお迎えすることができ、今年も皆様方がお健やかで、それぞれに輝くことができそうですように祈念いたします。

会記

床 雪月花

花入 胡銅

花 椿

香盆 鶴(琵琶)

釜 段付古天命

菊地正直造

水壺 仁清手桶

暁山造

棚 半板 茶器 大平棗垂れ柳時絵

茶盤 織部

銘 若草

水次 七宝寸度

形

建水 曲

蓋置 青竹

煙盆 手付四方

茶 松柏

菓子器 縁高

菓子 ぼほえみ



三〇二室では各流儀による先生方の新春初生けの作品展示とお茶席の待合席でお客様をお迎えしました。

乙巳の年。巳は



脱皮を繰り返すことから再生と発展を意味し、努力が実り準備が整い発展していくといわれています。私も巳年にふさわしい花器を用意し新春を寿ぐ花材でがんばりました。それぞれ先生方の作品にも新春を寿ぎ新しい年に希望を託しがんばる心が通う作品でした。

お待合いでは柚子もちを桜湯でご接待をし、来る春を味わわせていただきました。午前十時から十一時、十二時、十三時と四回に分け席割りをして行った茶会でしたが先生方の前日からのしつかりした準備と協力で計画通りきちんと終了することができましたこと、心から感謝とお礼を申し上げます。

市民の皆様にも永い間、茶華友の会を暖かく応援していただき、今日に至っております。会員(指導者)の高齢化等もあり、今一度市民の皆様にお声をかけさせていただきます。協力をお願いいたします。

※三月三十日(日)  
春の市民茶会といけばな諸流展  
お越しをお待ちしています。

## 初心者入門講座

### はじめてのフラ(ダンス)

ハラウフラオカプアノホマリーエ

講師 河合 奈美

何事にも一歩を踏み出すには勇気がいるものです。私がフラを始めた時にもそうでした。何がきっかけだったのかというと二〇一一年の東日本大震災でした。明日何が起きるのかわからない。何かやってみよう、お友達に誘われていたフラを始めてみる事にしました。

講座を受講する方も理由は様々ですが、受講されてご縁が繋がってきます。

今回の初心者入門講座でも基本のステップ、ハンドモーションにも目をキラキラさせ一生懸命に取り組む姿が、フラを始めたばかりの自分と重なるものを感じました。しっかりと曲を家で練習してきて、フラが好きなんだと感じました。

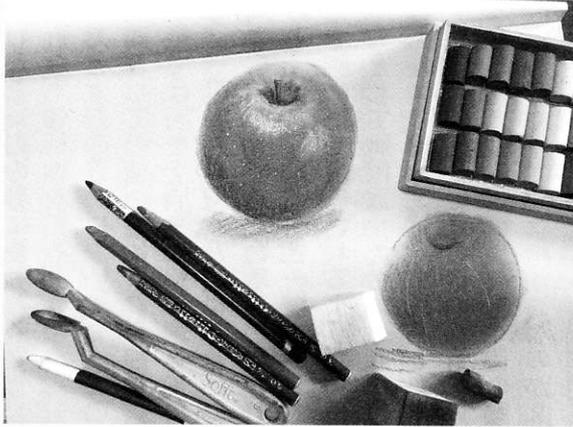
五回の講座でしたが、基本のステップの他、曲に出てくるハワイの地名やハワイ語の意味についても、お話を盛りに上がりました。

最後になりますが、この講座の為に、ご尽力いただいた文化協会の役員皆様、受講された方々、温かく見守っていただいた市民の皆様に感謝いたします。

## 三回目のパステル画

### 初心者入門講座

講師 山本 智恵



パステル画を描き始めて約二十年。人物、猫、静物、風景と手当たり次第に描いて来ましたが、今をもって満足した作品はありません。

コロナ禍の最中、必要以外の外出を憚られ、家と田畑の往復の毎日、

時間があれば画用紙に向かっています。

今回受講の皆さんは、五十代から八十才ほど、人生経験も豊かで、果物・花・人物・風景と題材を変え講座を進めていきましたが、お一人の欠席者もなく「今後も続けたい」との希望者もあり、講座を受け持つて良かったと思っています。

人は食べて寝るだけでは生きられない、心身共に健やかで、長い人生を生きる為に、生きがいとして、また自己表現として、皆さんと研鑽を積んでいきたいと思っています。

## 初心者入門講座

### 自分の年賀状を作りませんか 多色刷りで年賀状をつくる

講師 伊丹 晴生

最近は色々なことがデジタル化しました。その一つでしょうか。版画も以前には小中学校でも楽しんでいました。

今回、この講座に三名の方が参加して、とても楽しんで版画年賀状を作りました。手作り作品を見てください。



加藤 和枝



竹下 典子



鈴木 雅子

# 文化財めぐり

## 関・美濃を訪ねて

新城市文化協会副会長

兵藤 祐治

令和六年十一月十三日、文化財巡りは、関の刃物文化と美濃うだつの街並みを訪ねながら、晩秋小春日和のモネの池を散策した。

関市の最初の立ち寄り先では、丁字形の大きなモニュメントにびつくり、フェザー・ミュージアムに立ち寄り、今では私個人的には電気カミソリが主流なのであるが、薄いカミソリの刃を替えながらの丁字形安全カミソリに郷愁を感じた。

進化した日常生活に密着したカミソリ・ハサミ・爪切りから医療用・理容美容・工業用刃物まで、切る文化の奥深さを知る。



実演を放映していた。刀祖・元重が関に移り住み刀鍛冶を始めたのが鎌倉時代といわれ、良質な焼刃士・松

徒歩で次の

関鍛冶伝承館に移り、関刃物、刀の真髄に触れる。一月二日テレビ

で迫力のある新年打初式の日本刀鍛錬の

実演を放映していた。刀祖・元重が

関に移り住み刀鍛冶を始めたのが鎌倉時代といわれ、良質な焼刃士・松

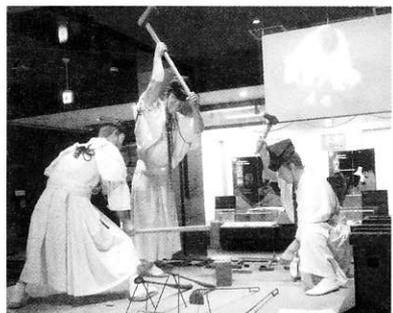
炭・水、更に水運に恵まれ刀匠が集まり戦国武士の名刀の産地として関の繁栄があった。刀の出来るまで、玉鋼の鍛錬にはじまり、刀匠から研ぎ師・柄巻師・鞘師・白銀師、ふと気づけば、車窓から温暖化の影響が板取川周辺の朴葉の木もまた落葉はこれから、刀の鞘に使われると知り身近な木の特性を知る。

刀と太刀の違いについても武士の武器としての使い方により単独歩兵的戦では刃を上向きに脇に刺している。一般に刀の切る刃がね部分が上向きに展示してある物は刀と言われるようである。下向きの場合は、太刀で腰に紐で吊るされるようだ。日本刀として戦国武士の台頭と共に需要も高まり関の隆盛をもたらした。テレビの時代劇に見る侍の風情を見る度、馬上の侍、街道を行く侍の腰に目が行く、太刀なのか刀なのか？

戦の道

具としての武器も戦乱を乗り越え平和な世界になると

卓越した刀匠により優れた美術的価値を備え、刃文に見られる技術の粋と美が見えるらし



見られる技術の粋と美が見えるらし

い。

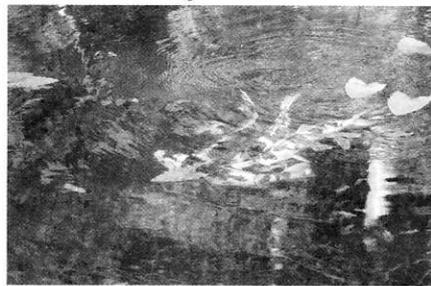
設楽原歴史資料館に、一月より刀剣常設コーナーが加わり、長篠設楽原の戦いに思いを馳せ見学を楽しみたい。

次には一昨年訪れた郡上八幡長良川上流に沿うように、板取川をさかのぼりネームレスポンド(名もなき池)に向かう。紅葉と所々に見える朴ノ木の落葉してない様に刀の鞘師を思い浮かべた。モネの池は、根道神社の境内から湧き出る透明度の高い貯水池で睡蓮の花は無かったけれども、晩秋の紅葉を水面に映し、鯉が戯れていた。湧



水の水面のキャンパスは、四季折々の風情を醸し訪れる人を楽しませていた。

秋の短い一日、美濃のうだつの街並みへと



向かう。江戸時代、豪商の富と粋の象徴として作られ、元は防火壁であるうだつ。江戸時代、庶民の願望のうだつ、うだつが



上がるか上がらないか、成功者の印として競われたようである。元々美濃地方は、和紙産業の町として和紙問屋によって築か

れ、うだつの上がる街並みが形成された。美濃は、尾張・飛騨・近江・伊賀・伊勢、更に越前・京都大阪に通じる交通の要衝に位置し和紙問屋に始まり、造り酒屋から塩問屋・米問屋等商人の行き交う商業の街並みが形成された。



今回の文化財巡りは、関の刃物文化に始まり、本美濃和紙の紙すき技術が二〇一四年ユネスコの世界遺産に登録された美濃市を散策、晩秋の日も暮れ、美濃紙の柔らかな行燈の光に送られ、旅は帰路についた。

今回の文化財巡りは、関の刃物文化に始まり、本美濃和紙の紙すき技術が二〇一四年ユネスコの世界遺産に登録された美濃市を散策、晩秋の日も暮れ、美濃紙の柔らかな行燈の光に送られ、旅は帰路についた。

# 各分野の活動から

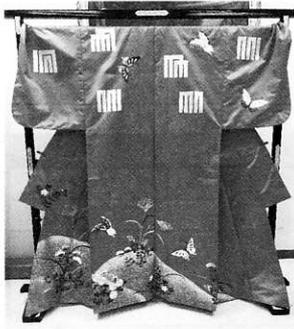
## 新調能装束(縫箔)の紹介

能楽協会(新城能楽社)

今泉 英三

新城富永神社祭礼能は元文元年(一七三六)から二九〇年近く継承されてきました。このことは、奉納演者を始め現存能舞台と能面・能衣装を江戸時代から連綿と引き継ぎ、この三つのうちのどの一つも欠くことなく維持できたことの所以です。しかし、近年、時代とともに能装束の損耗により、演能への支障が危惧されるようになりました。

そこで令和元年度を始点に新城自治区地域活動交付金の活用で代替能装束の新調を進めてきました。今年度は主に女物のシテの着付に使われる「縫箔」を新調しました。赤地の絹に源氏香のマークと遠山を金の摺箔で、蝶と秋草を刺繍した華美なものです。祭礼能を継承するための地域の貴重な財産として活用します。



縫箔  
赤地源氏香に  
蝶遠山秋草文様

## フラダンスを楽しみましょう!

ハーラウフラオカプアノホマリーエ

インスタ 小林紗智子

私は、高木好子先生主催のフラダンス教室にご縁をいただき、先生や先輩方の踊る姿に憧れと楽しさに夢中になり十三年目になります。現在小学生から九十五才の方まで楽しくレッスンしています。

フラはハワイの伝統芸能です。足でリズムを取りながら、手の動きで自然や人の感情を表現します。

先生よりハワイの歴史、言葉や植物の名前等を学び、歌詞の意味を深め、詞に想いを馳せ踊ります。フラソングに癒され、ゆったりとした動きで心身共にリラククスできます。

今年、会の発表会を始め、桜淵公園の桜まつり、新城文化会館での春・秋の芸能祭、セントレア、浜松フラワーパークでのフラフェスティバル、各地区での敬老会、お祭り、介護施設等のイベントに参加しました。また昨年六月には、五年ぶりに開催された四十年の歴史があるまつりインハワイに参加させていただきました。

フラを通じて仲間ができ、同じ舞台に立つ目標に向かって、気持ちひとつになり踊る中で達成感を味わう事ができます。是非、皆様も私達と一緒にフラを楽しんでみませんか?

# 『万葉集』を読み進めて 古典読書会

## 地元の歴史を楽しむ日々

河合由美子

私は万葉集読書会のメンバーです。昨年、知立や岡崎の万葉集読書会のサークルから、互いに情報交換して活発な活動にしましょうとお声掛けがあり、凄いかき物をお声掛けしました。

それは七〇二年の秋、持統上皇が奈良の都から三河湾を船で渡り、三河に来られた行路と、その時詠われた十首を載せた物でした。万葉集の第一巻、第三巻に有り、豊川の御津や伊良湖の島の風景などが詠われています。

持統上皇は息子である草壁皇子を亡くし、病弱な孫である文武天皇の御病氣回復の祈禱の為に鳳来寺山の利修仙人に勅いを出しました。

本宮山で道に迷った時、大國主命が現れ導いてくれた事、徳定では峠の近くで石をお膳にして食事を出された事、矢部では長旅の末に休養された寺などの話が伝わっています。

天皇の病氣回復後、寺名は興休山勅養寺となり、十六花弁の菊の御紋の使用を許されました。桜の満開の頃に出かけて写真を撮ってきました。

上皇が七〇二年の秋、一カ月弱滞在された宮路山には、今年初めて登りました。晴天に恵まれ、遙か彼方の三河湾を臨む事ができました。

## 巻十一を読んで

鈴木多恵子

早いもので後半の巻十一まで読み進んできました。この巻は全てが読み人知らずの恋の歌で長い年月の間に口ずさまれた日常生活の豊かな巻です。もう一つの特徴としては古今相聞往来歌類の「上」に当たる事です。巻十二が「下」となります。

冒頭は柿本人麻呂歌集の族頭歌(五七七五七)で

「新室の壁草刈に坐し給はね草の如寄り合ふ少女は君がまにまに」

「新室を踏み静む子が手玉鳴らすも玉の如照らせる君を内にと申せ」と合わせて祝婚歌です。明るく楽しい歌ですね。村落共同体の生活が描かれたおらかなこれぞ万葉集という感じがします。

「朝寝髪われは梳らじ愛しき君が手枕触れてしものを」は枕草子、古事記にまで言及して学びました。私は特に「神話に隠された神々の痕跡古事記再発見」三浦佑之著

「沼河比売と翡翠」に心を惹かれ日本列島にもヒスイの産地があったことに驚かされました。女性は宝石類に弱いのかも?ですが印象深い巻となりました。

令和6年度 賛助会員 ご入会ありがとうございます

法人		個人 (市関係)			
(2口)	(有)富建	(1口)	永田 美紀	鈴木 隆司	松井 康浩
愛知東農業協同組合	(株)あみや商事	下江 洋行	竹内 克典	阿部 和弘	井上 尚子
(株)ヨコタ印刷	(有)仲東電装	建部 圭一	中村 英紀	個人 (市議会議員)	
本多プラス(株)	(有)三京住宅	安形 博	藤原 一宏	(1口)	浅尾 洋平
(有)鈴信組	(株)イズ半	佐藤 浩章	横山 和典	山口 洋一	柴田賢治郎
光田屋(株)	しんしろフィットクリニック	長坂 茂英	鈴木 金也	カーランド陽子	小野田直美
(宗)桃牛寺代表役員 角田真理	グリーンヒル	山本 浩志	滝川 昌幸	今泉 吉孝	山田 辰也
(株)田村組	川合歯科医院	篠宮 彰里	佐々木昌介	小林 秀徳	村田 康助
松井建拓(株)	ながしのクリニック	野澤 尚史	権田 晃明	竹下 修平	鈴木 達雄
瀧川オプラート(株)	(株)佐津川モールド	林 和宏	松山 元晃	佐宗 龍俊	中西 宏彰
(株)東雲座カンパニー	(株)ナツメテクノス	牧野 幹予	河村 英樹	鈴木 長良	丸山 隆弘
茶華友の会	(有)フラワーショップあざおか	白井 薫	金田 浩司	個人	
(1口)	八葉製パン(有)	安形 雄一	居澤 正典	(3口)	福田 義久
(株)戸田工務店	(株)杉生	加藤 千明	請井 貴永	天野 雅夫	酒井 淑規
大高精工(株)	(医)一哉会宮本病院	安藤 映臣	加藤 勝彦	(1口)	三喜 藤菊
司法書士 佐野潤	(医)静蔵堂医院	塩澤 宏樹	山口 貴司	峰野 修	竹下美枝子
オーエスジー(株)	三州建設(株)	戸村 俊人	杉浦 達也	瀬野尾良兵	権田 初子
(宗)醫王寺	(有)阿部工務店	武川 裕江	小柳津啓之	小林 常男	高柳とよ子
新昌寺	大海自動車(株)	杉下 成利	長屋 匡紀	小林 芳春	山本恵美子
宗堅寺	早川工業(株)	松井 哲也	瀬野尾充彰	丸山 繁治	松井 安子
(有)今泉紙店	(株)鈴木工務店	吉林 和久	大橋 健二	古市 貞雄	杉浦 妙子
(有)河口水道	(医)星野病院	杉本 晶子	柴田 和幸	今泉 研吾	中川 絹代
(株)桜坂設計	(株)スエヒロ産業	林 弘一	井上 博之	角田 真理	夏目 幸子
(有)坂巻銃砲火薬店	ほうらいクリニック	松下 領治	服部 充伯	安形 吉司	小田香代子
(株)中沢設計事務所	(株)末廣屋	牧野 賢二	阿部 共志	永田 陽介	杉浦 能子
(株)ごんだ	(株)ケイミックスパブリックビジネス	小林 利章	田中 広治	今泉 良治	大谷みち子
(株)清月		杉山 陽治	加藤 正文	戸田桂一郎	松井 節子
		貝崎 禎重	澤上 幸男	原田 学	筒井 康江
		城所 克巳	山田 康司	鈴木真喜生	河合 秀明
		加藤久美子	藤田 伸介	渡辺亜希子	亀甲 昌明
		後藤 美紀	加藤 広樹	村田 博和	金子 華石
		黒田 健二	櫻本 泰朗	平原 俊伍	野澤 藤夫
		中山 恭成	原田 俊介	原 義弘	今泉 英三
		佐々木多津美	中嶋 孝佳	熊谷 幸広	中山 秀文
		伊與田吏美	村田 方恵	吉田 詩朗	花田 幸三
		中島 紳助	湯浅 大司	今泉 浩和	阿部 和子
		内藤 明美	菅野 裕也	林 英嗣	高木 好子
		松山 京子	安井 研二	鈴木 則明	竹下 博子
		加藤 宏信	中村 讓	権田佐代子	井土 宣紀
		川窪 正典	河口 昌和	清水 利高	米谷 実紀
		加藤 良一	浅井 直樹	今泉 澄夫	

※法人1口5,000円 個人1口3,000円 順不同敬称略

編集後記

今年度発行の前二号は4ページ立てとなり、重要・必要な活動報告だけで紙面一杯になり、各分野の諸活動の報告は不十分でしたが、今回事務局の工面工夫のおかげで例年通りの8ページ立ての発行となり、多くの活動に関する紹介ができました。

まず表紙の復活、これは市民の皆さんに回覧でお知らせをしている為、短時間に内容を知っていただくよう目次風に工夫したものです。目にとまり関心を持たれた内容については事務局へお問い合わせください。

冒頭には、安形教育長にご寄稿いただき、親たちから子どもたちへの文化の継承に対するご示唆をいただきました。

た(P2)。続いて本協会会長の役目と兼ねて東三河支部の長としても多くの活動をされた天野会長の、県下東三河の現状に関する所感(P3)もお読みいただきたいと思えます。

以下恒例になりますが、各分野の成果や東三・県段階以上で受賞された方々の紹介(P3/1月現在)。県美展の上位入賞者の作品をも紹介しました(P4)。また茶会(P4)、初心者入門講座(P5)、文化財めぐり(P6)なども、講師や担当者の感想報告などを詳しく紹介できました。更に文化祭などでは活動を充分発表しにくかった分野(能楽・フラ・読書会)からも活動成果の一端を紹介していただきました(P7)。

最後になりましたが、例年通り多くの方々に賛助会員としてご支援いただき誠にありがとうございました。

本号の内容ではありませんが、一つ紹介させていただきます。それは、賛助会員で文化祭にも展示参加された鈴木真喜夫氏が「東日新聞」(1月31日)に寄稿「新たな扉を開く芸術体験の場」と題した記事で、協会の文化祭・新城音楽祭に参加された感想を中心に、本協会の活動について深いご理解とご評価を込めた紹介をされています。会員・市民の皆さんにもご一読いただければ幸いです(事務局へお問い合わせください)。(亀甲)

新城市文化協会事務局

新城市字下川1の1  
☎ 23-7656